

イージスアショア配備計画の停止と「国の専権事項」論



2020年6月16日 FB ページ I Love いしがき に投稿

次ページの図は、6月16日の八重山毎日新聞と沖縄タイムス記事の切り抜きです。

河野太郎防衛大臣が、イージスアショア迎撃ミサイルシステムの配備計画の停止を発表しました。その理由として挙げたのは、住民が強く指摘していた、ミサイル発射後に切り離されるブースターロケットの演習地外落下の危険を否定しきれなくなったことでした。

これは、凄いニュースです。

防衛省が「わが国防衛のため必要不可欠」としていた配備計画が、住民の反対でストップしました。つまり、「国防は国の専権事項」論が、完全に破綻したのです。

石垣市への陸上自衛隊ミサイル基地配備問題で、中山市長と推進与党市議のみなさんが、ほぼ唯一の「論拠」としていたのが、この「国の専権事項」論でした。ですから、このみなさんの立場も、崩れてしまったのです。

例えば、中山市長の「配備計画は国の専権事項なので受け入れないという判断は基本的にない」発言（2018年7月18日記者会見）は、秋田県知事、秋田市長、山口県阿武町長などが「受け入れないという判断」を示したら配備が「停止」になりましたから、まったく根拠を失いました。「基本的にない」などと市民をだまして、平得大俣の市有地まで売り渡してしまったのですから、このことだけでも、中山市長はリコールに値します。

また、推進与党市議のみなさんが良く口にしていた「国防の専門家の高度な判断だから従う」論も、今回の、「ブースターは演習場内に確実に落下させる」と安請け合いしながら「アメリカに問い合わせてみたらダメだった」でひきさがった防衛省のお粗末さで、すっかり底が割れてしまいました。「専門家」より、住民の方が、よっぽどまじめに考えていたのです。それは、これまでの「説明会」でのやり取りからもわかるように、石垣島でも同じです。

中山市長が市有地を売ってしまったのは、本当に許せない、悔しいことです。しかし、今からでも、市長を変えればミサイル基地は止められます。それも、このニュースからわかります。だって、秋田県と山口県のイージスアショア配備予定地は、はじめから国有地、それも陸上自衛隊の演習場だったのですから。

ところで、イージスアショアの「爆買い」は、現政権のトランプ大統領への重要な約束でした。それが、あっさり「停止」になるのは余程のことです。本当の理由は、もっと別のところにあるのかもしれませんが、これからも、要注目です。

陸上イージス、配備計画停止 迎撃技術に不備、防衛相表明

河野太郎防衛相は15日、陸上配備型迎撃ミサイルシステム「イージス・アショア」について、山口両県に配備するプロセスを

停止すると発表した。迎撃ミサイルのブラスターに技術的な問題が見つかり、改修にコストや時間がかかるためと説明した。防衛省で記者団に語った。

安倍晋三首相には、河野氏が12日にプロセス停止の方針を説明し、了解を得たという。近く、国家安全保障会議(NSC)に報告し、配備計画を白紙撤回するか、代替案を検討するかなどを諮る。同省はこれまで、配備を予定する山口県の陸上自衛隊むつみ演習場で、迎撃ミサイルのブラスターロケットを「演習場内に確実に落

トが想定され、河野氏が「合理的ではない」と判断した。

ため、2017年12月にNSCでの議論を踏まえ、閣議決定した。河野氏は陸上イージスに代わるミサイル防衛について、当面イージス艦で対応するとしている。

下させる」と地元で説明してきた。しかし落下場所を制御するためには、ソフトウェアだけではなくハードウェアの改修も必要ことが判明。迎撃ミサイルの開発にはさらに10年以上、数千億円のコストがかかる。河野氏は「見通しが甘かった」と認め、近く謝罪のため両県を訪問する考えを示した。

候補地を決める際の調査データにミスが見つかるなど、防衛省の不手際が明らかになり、秋田県内で配備反対の声が強まっていた。

地上イージス白紙

迎撃後に技術的問題

防衛相「費用と時期鑑みた」

河野太郎防衛相は15日、秋田県と山口県に進めてきた地上配備型迎撃ミサイルシステム「イージス・アショア」配備計画を停止すると防衛省で記者団に表明した。迎撃ミサイルを発射した後、ブラスター部分を自衛隊演習場や海上に確に落とせない技術的問題が分かったり、周辺民家の安全確保にハードウェア改修が必要になったと理由を説明。「コストと配備時期に鑑みてプロセスを停止する」と述べた。安倍晋三首相は12日に報告した。(2・3・6・29面に関連)

防衛省は、ミサイルの推進補助装置となるブラスター部分について、2018年8月以降の山口県には陸上自衛隊むつみ演習場(秋田市)に配備計画がある。防衛省は、ミサイルの推進補助装置となるブラスター部分について、2018年8月以降の山口県には陸上自衛隊むつみ演習場(秋田市)に配備計画がある。防衛省は、ミサイルの推進補助装置となるブラスター部分について、2018年8月以降の山口県には陸上自衛隊むつみ演習場(秋田市)に配備計画がある。